



# 市制と時を同じくして産声を上げた駅伝 60歳の市内一周駅伝競走大会

## 栄光の軌跡

優勝回数	町名
15回	山代
13回	松浦
10回	二里
6回	東山代
4回	伊万里
4回	立花
3回	波多津
3回	大川
2回	大坪
1回	黒川



記念すべき60回大会で3年ぶり4回目の栄冠に輝き、笑顔いっぱいの立花地区チームの皆さん

## 60回大会のコース (12区間 60.3キロ)

走行	区間		距離 (km)
	自	至	
1	浦ノ崎駅前	久原駅前	3.3
	40歳以上区間		
2	久原駅前	東山代小学校前	4.6
3	東山代小学校前	相生橋	5.1
4	相生橋 (再スタート)	木須東	1.9
	女性区間		
5	木須東	消防署北分署前	6.0
6	消防署北分署前	波多津公民館前	6.6
7	波多津公民館前 (再スタート)	中山神社前	4.9
8	中山神社前	南波多梨選果場内	7.7
9	南波多梨選果場内 (再スタート)	消防署東分署前	7.1
10	消防署東分署前	J A伊万里松浦支所前	5.6
11	J A伊万里松浦支所前	中島重機開発前	4.9
12	中島重機開発前	市役所前	2.6

## 大会を彩った歴代区間最高記録ホルダー

区間賞	氏名	タイム	大会
1区(3.3k)	川原 國男 (大坪)	10:48	第40回
2区(4.6k)	土田 将太 (東山代)	15:40	第59回
3区(5.1k)	牧瀬 光之 (二里)	17:09	第57回
4区(1.9k)	川原 麻子 (大坪)	06:36	第46回
5区(6.0k)	北村 弘樹 (立花)	19:44	第55回
6区(6.6k)	松本 慎市 (大坪)	21:48	第53回
7区(4.9k)	松永 鉄男 (伊万里)	15:33	第40回
8区(7.7k)	北村 弘樹 (立花)	24:40	第56回
9区(7.1k)	岩崎 瑛 (大川内)	21:59	第56回
10区(5.6k)	永尾 幸大 (二里)	18:30	第52回
11区(4.9k)	松本 千弘 (波多津)	16:32	第55回
12区(2.6k)	山崎 大聖 (立花)	08:09	第60回



60回大会で魂の選手宣誓をする東山代町の立石健太選手

● 問合せ先 体育保健課 (☎033187)

今回の特集では、市内一周駅伝競走大会60回大会の開催を記念し、60回大会の成績や大会のあゆみなどを紹介するほか、大会に携わる人へのインタビューなどを通じて、歴史と伝統ある大会の魅力に迫ります。

昭和29年に西松浦郡内の2町7か村が合併し、伊万里市が発足しました。当時は、市政を運営するうえで、2町7か村の壁を取り払い、8万3000人の市民の一体化や親和を図ることが課題でした。このような課題を解決しようと誕生したのが市内一周駅伝競走大会です。

市内一周駅伝競走大会は、区間やコース、距離の変遷があるなど、これまでに紆余曲折があったものの、60回を数え、すっかり伊万里の晩秋の風物詩として定着しています。また、長距離選手の登竜門として大きな役割を果たして、九州一周駅伝や県内一周駅伝などで活躍する選手を多く輩出してきました。





市内一周駅伝競走大会の記事を初めて『広報伊万里』に掲載したのは、第11回大会でした。



↑ 11回 (昭和39年12月6日) 寒風について50キロ

# 歴史をちょっとつまみ食い あんときの記事だ！

昨年11月24日に第60回を迎えた伝統ある市内一周駅伝競走大会。これまで『広報伊万里』でも結果などを記事にしてきました。ここでは、昔懐かしい記事や珍しい記事などを紹介します。『広報伊万里が伝えてきた市内一周』を通して、市内一周駅伝競走大会の歴史を垣間見てみましょう。



↑ 25回 (昭和53年12月3日) 花嫁がゴールに出迎え

2区(久原駅前～東山代小学校前)を完走した東山代町長浜の中倉政義さん(29歳)は、中継所へ文金高島田の花嫁姿で出迎えた南波多町井手野の山崎陽子さん(24歳)と手を取り合って、その足で近くの結婚式場、正福寺に駆け込んで、めでたく結婚にもゴールインをしました。

大会初の女性選手、出雲景子さん(波多津中学校教諭・22歳)がオーブン参加。3区(東山代駅前)佐賀銀行伊万里支店前・4区(最)後尾ランナーと同時に出走し、16分41秒のタイムで走り抜きました。



↑ 16回 (昭和44年12月7日) 女性も初参加

## 親子のふれあい

※昭和58年1月号『ほほえみひろば』に寄せられた手記より  
去る12月5日、市内一周駅伝が開催されていた。私たちも町民の一人として、家族そろって応援に出かけた。沿道で応援しようかとも思ったが、駅伝の雰囲気と選手の息づかいが少しでも感じられる所にと、中継所まで出かけて行った。

いやいやながら連れ出された子どもたちは、雨の中「早く帰ろう」といつ言い出すかと安じつつ、時間とともに近づいてくる選手の足音に耳を傾け、高鳴る胸の鼓動を感じた。

第一区、山代町一位で通過。頑張って走り抜いたお父さんに、子どもは駆け寄り、無言の会話……。そと差し出す手拭いにはののかなぬもりを覚え、完走した満足感と慈愛に満ちた父親のままざしが、とても印象的であった。そして子どもの顔は、誇らしい父親を持った優越感で満たされていた。

私は、この親子のほのほのとした光景にまぶたがあつくなつた。近年、親子の断絶とか人間疎外がいわれている中に、このような温かい親子のふれあいをかいま見て、心温まる思いでした。と同時に、この姿こそ、今私たちに求められている親子の姿ではないでしょうか。

いやいや出かけて来たわが子も、すっかりこの場の雰囲気を楽しんでいった。無理やり連れてきてよかったと思った。選手の通り過ぎる後を見送りながら……。



↑ 29回 (昭和57年12月5日)

山代町久原二区の川尻栄子さんが市内一周駅伝について寄せた手記を紹介します(右)。

21回

20回

1回

中山地区婦人会に、長年にわたる駅伝選手への心づかいに感謝して市体育協会から表彰状が贈られた

昭和49年12月8日  
古賀誠さん)に感謝状が贈られた

昭和48年12月9日  
山代町が6連覇達成。久原駅前で行われた開會式で、市内一周駅伝競走大会の実施に尽くしたとして4人(副島喜左工門さん、力武英巨さん、井手正範さん、古賀誠さん)に感謝状が贈られた



昭和29年4月1日  
伊万里市制施行  
昭和30年1月30日  
大会名は『第1回市内各町対抗市内一周駅伝』。浦ノ崎駅前をスタートし、8区間77キロで競われた。初代王者は波多津町で、タイムは3時間52分45秒

## 市内一周駅伝 競走大会のあゆみ

# 市内一周駅伝競走大会 立花地区が3年ぶりに王座奪還!

記念大会となった60回大会は、晴天にも恵まれ大きな盛り上がりを見せた

市内13地区の代表選手が、12区間60・3キロで健脚を競う『第60回伊万里市内一周駅伝競走大会』が、昨年11月24日に行われ立花地区が3年ぶり4回目の優勝を果たしました。

序盤から主導権を握ったのは立花地区。2区の岡島明子、3区の内野加那子が、男子が多い区間でそれぞれ区間3位の快走をみせ、中盤でも8区で、歴代区間最高記録をただ一人2区間で持つ男・北村弘樹が、今回も区間賞を獲得する貫禄の走り。最後は、アンカーの山崎大聖が区間新記録となる驚がくの走りで締める見事なレースを展開しました。

当日は、晴天にも恵まれ、どの町の沿道にも、たくさんの方が駆けつけ、思い思いに温かい声援や拍手を選手たちに送っていました。



区間新記録を樹立した立花地区山崎大聖(右)のスタートダッシュ

## あなたにとっては何ですか それぞれの市内一周

「市内一周駅伝とは、あなたにとってひと言でいうと何ですか」。長い間、市内一周駅伝と縁が深い2人にこんな質問をして、実際にしたためてもらいました(写真)。このほかインタビューでは、2人がそれぞれに市内一周駅伝の魅力などについて語っています。市内一周駅伝を知らない人も、これを読めば興味を持つきっかけになるかもしれませんし、市内一周駅伝ファンの方は、もっと好きになるのではないのでしょうか。皆さんにも質問します。「あなたにとって市内一周駅伝とはどんな大会ですか」。



### プロフィール 多久島 昇 Profile Noboru Takushima

市内一周駅伝競走大会 46回出場は前人未踏。大坪、立花と2つの町で優勝を経験。東西松浦駅伝に18回、県内一周駅伝に8回出場。現在もランニングを続けていて、昨年12月の青島太平洋マラソン2013では、3時間49分15秒で完走。67歳。

#### きっかけは『場つなぎ』

市内一周駅伝に初めて出場したのは19歳。きっかけは、町民運動会で場つなぎにと、陸上の経験もない私が走った持久走でした。運動会での走りを見た公民館職員から誘いを受けて駅伝の練習に参加。そこから、市内一周駅伝に46回も出場することになるとは、不思議なものですよね。

#### 特別な思い、独特の緊張感

市内一周駅伝は特別に緊張しますね。試合前は、気合が入り、若い頃は深夜に仕事が終わっても、職場から自宅まで10キロ以上の距離を走って帰るなどして練習時間を確保していました。レース中に腹痛を起こしてブレイキになり、チームに迷惑を掛けたことも

ありましたが、そんな時でも監督やチームメイトに勇気付けられ励まされて、次の大会へとつながっていきました。あと特に記憶に残っていることは、1秒差で獲れた区間賞と、2秒差で区間賞を逃したときの悔しさですね。

#### 苦楽を知り、財産を得た

苦しい思いは嫌と言うほど味わいましたが、またなぜか市内一周駅伝の季節になるとワクワクした気持ちになりました。それは、仲間と喜びも苦しみも分かち合えたからでしょう。長くやっているとその分仲間も増えます。先輩や同僚の子どもと一緒に走ることもあります。多くの仲間との絆や思い出が私の財産です。

#### 伊万里の駅伝ファンはすごい

市内一周駅伝最大の魅力の一つは沿道の応援。いつも地元のみならず分け隔てが無い温かい応援に感謝です。伊万里の駅伝ファンはすごいです。

#### ひまわりとごんごん『交友』

市内一周駅伝には感謝しています。この大会のおかげで、仲間やライバル、町民など数え切れないほどの人たちと交わることができ、心を通わせることができたのですから。

26回	昭和54年12月9日 大坪地区が初参加。大川町と松浦町が3時間44分57秒の同タイムで優勝。大川町は初優勝。松浦町は6連覇達成
28回	昭和56年12月6日 松浦町が8連覇達成。現在もこの連続優勝記録は破られていない
34回	昭和62年11月29日 開催日を11月最後の日曜日に変更。以降変更はなく定着した
37回	平成2年11月25日 山代町が2度目となる6連覇達成
38回	平成3年11月24日 東山代町が30年ぶりに優勝。山代町の7連覇を阻止
40回	平成5年11月28日 初めて女子区間(4区・相生橋から再スタート)が設けられる
42回	平成7年11月26日 東山代町が5連覇達成



31回大会





# 最新の大会はこうなった！第60回

## 60回大会成績

※ 敬称略  
※ 記録の赤字は区間新記録

総合順位	町名	タイム	区間賞	氏名	タイム
優勝	立花	3:33:46	1区(3.3k)	牧瀬 光之(二里)	11:13
2位	山代	3:34:18	2区(4.6k)	古藤 健太(大川)	16:32
3位	東山代	3:34:55	3区(5.1k)	山口 茂幸(山代)	17:44
4位	大川	3:36:27	4区(1.9k)	山下 莉奈(黒川)	06:46
5位	二里	3:37:08	5区(6.0k)	山口 剛(山代)	20:46
6位	波多津	3:38:29	6区(6.6k)	中島 優大(伊万里)	22:06
7位	伊万里	3:41:05	7区(4.9k)	山本 一輝(東山代)	18:03
8位	黒川	3:41:16	8区(7.7k)	北村 弘樹(立花)	25:40
9位	大坪	3:41:45	9区(7.1k)	山口 翔馬(伊万里)	22:00
10位	南波多	3:50:01	10区(5.6k)	山口 俊成(波多津)	18:40
11位	松浦	3:54:29	11区(4.9k)	坂口 豊(黒川)	17:41
12位	大川内	4:00:17	12区(2.6k)	山崎 大聖(立花)	08:09
13位	牧島	4:12:16	躍進賞	大川(前大会より8分57秒短縮)	



大川町2区の中尾啓司(左)から3区の中尾浩司への兄弟リレー



二里町11区の中尾啓司(左)から12区の中尾浩司への親子リレー

### 忘れられない『お風呂』

選手時代の一番の思い出は、雪が深々と降った日の大会で、中継所近くのある家が温かいお風呂を用意してくれていたことですね。このことに象徴されるように、長年陸上に携わってきていますが、市民の駅伝熱や応援の温かさは、県内トップだと感じています。

### 長距離選手の『登竜門』

市内一周駅伝に出場する選手の中には、陸上をしていなかった人も多くいますし、市内一周駅伝で活躍して、県内一周駅伝、九州一周駅伝とステップアップしていく人もいます。九州一周駅伝に出場するレベルの選手が、市内一周



## プロフィール 下平 康則

Profile Yasunori shimohira

市内一周駅伝競走大会には、選手として8回出場し、その後は審判など競技を運営する側として30年以上携わっている。現市陸上競技協会会長で、長年にわたり競技力の向上や青少年の健全育成などに尽力している。65歳。

### 続けていられたらいいと感謝

市内をほぼ一周巡回する駅伝は、県内ではほかにありません。ここまで長く継続できたことは、警察など関係機関の連携や協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。今

43回 ▼平成8年11月24日  
二里町が初優勝



44回大会

50回 ▼平成15年11月30日  
立花地区が初参加

54回 ▼平成19年11月25日  
二里町が7連覇達成

55回 ▼平成20年11月30日  
立花地区が初優勝。二里町の最多連覇(8連覇)記録更新を阻止

58回 ▼平成23年11月27日  
黒川町が初優勝

後とも事故のない安全な大会になるよう努めていきます。

### ついに『夢』

市内一周駅伝をひと言でいうと『夢』ですね。毎年、選手の成長した姿やひたむきな姿に市陸上界の明るい未来の夢を見ます。選手や家族、町民などの夢が特別にたくさん詰まったドラマチックな大会だと携わっていて感じます。これからの皆さんの夢を、そして夢のある大会を、しっかりと支えていきます。